

令和6年度 烏山小学校自己評価報告書

I 本校の令和6年度教育目標及び学校経営方針

別紙（4月に家庭数にて配布：学校ホームページに掲載）参照

II 学校概要

学校要覧を参照

＜自己評価報告書を作成するに当たって＞

○学校関係者評価アンケートの項目に沿って「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」「学力テスト」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。

○保護者の回収率は85.2%（昨年度は83.6%）地域の回収率は40%（昨年度は49.3%）でした。

○「とても思う」「思う」の評価を肯定的回答とし、その合計が80%を越えるものにはよい効果が出たと捉えます。（○印）

「あまり思わない」「思わない」「わからない」を否定的回答とし、その合計が20%を越えるものには課題があると捉えます。（●印）

○回答を肯定的、否定的に分け、保護者・児童・地域の結果と教員の結果に20%以上の開きがあるものには課題があると捉えます。

III 教員自己評価、関係者評価アンケートからの分析

1 主体的に探究する子どもの育成（研究）

【学校の自己評価から】

○「本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている」の肯定的回答が100%であった。

○「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が100%であった。

○「授業で自分の考えをもつことができている」の肯定的回答が97.1%であった。

○「授業で自分の考えを伝えることができている」の肯定的回答が97.1%であった。

○「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的回答が100%であった。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

○「本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている」の肯定的回答が81%であった。

- 「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が 82%であった。
- 「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の否定的回答が 28%であった。
- 「授業で自分の考えをもつことができている」の否定的回答が 31.4%であった。
- 「授業で自分の考えを伝えることができている」の否定的回答が 41.5%であった。
- 「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の否定的回答が 26.9%であった。

【児童のアンケート調査から】

- 「授業では、考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の肯定的回答が 99%であった。
- 「授業で自分の考えをもつことができている」の肯定的回答が 91.9%であった。
- 「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的回答が 83.7%であった。
- 「学ぶことが楽しい」の否定的回答が 21%であった。
- 「授業で自分の考えを伝えることができている」の否定的回答が 28.1%であった。

《改善案》

- ・「学び合うよさが分かり、生かそうとする子どもの育成」を本校の研究テーマとして授業改善に 3 年間取り組んできた成果として、「授業では、考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」の項目で肯定的回答が多い結果となった。教員が意識して話し合い活動や協働的に取り組む活動を授業に取り入れているため、自分の考えを友達と伝え合って深めていくことのよさを児童が実感しているものと考ええる。
- ・一方で、「授業で自分の考えを伝えることができている」の項目については否定的回答が多く、昨年度までの傾向と同様である。少人数で話し合ったりタブレット端末を活用して意見交流したりすることについては十分にできていると考えられるが、学級全体で自分の意見を言葉で伝えることにおいては抵抗を感じる児童も実態として多いことは考えられる。一人一台タブレットの効果的な活用法を検討していくことや、子どもの個性に応じた学びのスタイルを探り、構築していくことを学校全体の課題として考えていく。
- ・「学ぶことが楽しい」についての児童の評価が低いことが分かり、喫緊の課題となる。学ぶ楽しさは多様であり、児童一人一人にとって感じ方は異なる。自ら問いをもって探究する楽しさや、友達と伝え合い学び合う楽しさ、学びが自分の生活に結びついていると実感できる楽しさなどを味わうことができるよう、今後も校内研究をベースとして授業改善に取り組んでいく。

2 多様性を認め合える子どもの育成（特活）

【学校の自己評価から】

- 「私は、学校で自分なりに工夫したり学習したり、活動に参加したりすることができる」の肯定的回答が 100%であった。
- 「クラスの友達は、私のことを認めてくれている」の肯定的回答が 97.1%であった。
- 「私は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が 94.4%であった。

○「私は、クラスの友達といっしょに、よりよいクラスにしようと努力している」の肯定的回答が100%であった。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「わが子は、学校で自分なりに工夫したり学習したり、活動に参加したりすることができる」の肯定的回答が74.6%であった。
- 「クラスの友達は、わが子のことを認めてくれている」の肯定的回答が75.7%であった。
- 「わが子は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が78%であった。
- 「わが子は、クラスの友達といっしょに、よりよいクラスにしようと努力している」の肯定的回答が72.4%であった。

【児童のアンケート調査から】

- 「私は、学校で自分なりに工夫したり学習したり、活動に参加したりすることができる」の肯定的回答が83.7%であった。
- 「クラスの友達は、私のことを認めてくれている」の肯定的回答が79.4%であった。
- 「私は、クラスのために役立とうとしている」の肯定的回答が80.6%であった。
- 「私は、クラスの友達といっしょに、よりよいクラスにしようと努力している」の肯定的回答が82.1%であった。

《改善案》

- ・「学校の自己評価」や「児童」のアンケートからは概ね80%の肯定的回答にあったのに対し、「保護者・地域の関係者」からのアンケート結果は、すべての項目において80%をやや下回っている。学校や学級での活動に対して満足している児童が多いようだが、その様子が家庭や地域の方々に伝わっていないようである。
- ・「学校・児童」と「保護者・地域の関係者」との認識の差があることも伺える。児童の活動や成果が家庭・地域に伝わるようHP等を通して発信できるようにしたい。

3 心と体の健康な子どもの育成（体育）

【学校の自己評価から】

- 「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の肯定的回答が94.3%である。
- 「わが子は、体を動かすことを大切だと思っている。」の肯定的回答が97.1%である。
- 「わが子は、体を動かすことを楽しんでいる。」の肯定的回答が100%である。
- 「わが子は、学校や学校外で体を動かしている。」の肯定的回答が94.2%である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「わが子は、体を動かすことを楽しんでいる。」の肯定的回答が84.4%である。
- 「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の肯定的回答が71.7%であり、否定的回答が21.2%である。
- 「わが子は、学校や学校外で体を動かしている。」の肯定的回答が76.9%であり、否定的回答が22%である。

【児童のアンケート調査から】

- 「私は、体を動かすことを大切だと思っている。」の肯定的回答が 88.1%である。
- 「私は、体を動かすことが楽しい。」の肯定的回答が 85.9%である。
- 「私は、学校や学校外で体を動かしている。」の肯定的回答が 77.8%であり、否定的回答が 21%である。

《改善案》

【原因】

- ・「子どもは、体力の向上や健康生活に取り組んでいる」という項目において保護者より学校の肯定的回答が約 22%高く、保護者とのズレがある。学校では体育や保健の授業、行事や休み時間に体を動かしたり、その大切さについて学んだりする機会が多く設定されているが、保護者にそのことを伝えきれていない。また、コロナが明けて間もないこともあり、コロナ前と比べて運動する機会が減ったことも原因の一つと考えられる。
- ・「学校や学校外で体を動かしている」の項目では児童も保護者も肯定的回答が 80%を下回り、否定的回答が 20%を上回っている。これはコロナ禍の影響もあり、数々の制限が解除されてきてはいるが、以前のように積極的に体を動かす児童が減ってきていることが原因と考えられる。また、高学年の児童は委員会活動や行事等で忙しく、授業以外での運動量の確保ができていないことも原因の一つとして考えられる。

【改善策】

- ・年間を通して行っている体育的な行事、旬間での取り組みを学校だけでなく、家庭・地域にもより一層周知していき、学校と家庭・地域と連携して盛り上げていくことが必要である。学校としても、今まで通り取組の様子を学校だよりやホームページで周知していく。
- ・朝遊びの継続、休み時間の外遊びの推奨、係活動を通してのクラス遊びの活性化、体育の授業での活動の工夫によって子ども達がすすんで体を動かしたくなる機会を増やしていく。

4 教育のプロとして教員の資質や組織力の向上を図る。(教務・生活)

【学校の自己評価から】

- 「学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」の肯定的回答が 100%である。
- 「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」の肯定的回答は 97.1%である。
- 「子どもの意欲を大切にしている」の肯定的回答が 100%であった。
- 「子どものことを相談しやすい」の肯定的回答が 97.1%であった。
- 「学校生活は子どもにとって楽しい」の肯定的回答が 97.2%であった。
- 「子どもは家庭で自主的に学習している」の肯定的回答が 82.9%であった。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「学校行事は子どもにとって楽しい」の肯定的回答が 96.7%であった。
- 「学校行事は子どもにとって達成感がある」の肯定的回答が 96.4%であった。
- 地域「学校行事の内容は充実している」の肯定的回答が 100%であった。
- 「学校生活は子どもにとって楽しい」の肯定的回答が 90%であった。
- 「学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」の肯定的回答が

72.1%であり、否定的回答が 27.9%である。

- 「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」の肯定的回答が 78.4%であり、否定的回答が 21.6%である。
- 「子どものことを相談しやすい」の否定的回答が 28.5%であった
- 「子どもは家庭で自主的に学習をしている」の否定的回答が 41.5%であった。

【児童のアンケート調査から】

- 「学校行事は楽しい」の肯定的回答は 93・5%であった。
- 「学校行事は達成感がある」の肯定的回答は 88・6%であった。
- 「私は、学校のきまりを守って、行動している。」の肯定的回答は 83.8%である。
- 「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。」の肯定的回答は 82.7%である。
- 「先生に注意されたことは、理解できる。」の肯定的回答は 87%である。
- 「学校生活は楽しい」の肯定的回答は 89.2%であった。
- 「先生たちに相談できる」の否定的回答は 32.4%であった。
- 「家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている」の否定的回答は 35.1%であった。

《改善案》

- ・子どもは、教師に注意されたことに対して概ね理解できているようだが、注意や指導が行動の改善につながらないことがあるため、子どもと一緒に問題点や改善方法を考え、実践してけるような指導を行っていく。
- ・教員への相談のしやすさについては、児童の場合、「相談したいことがない。」というケースが含まれるため、ある程度肯定的に捉えてよいと考える。一方、保護者が教員に相談しやすいかについては、信頼関係を築くために連絡を取り合う時間の確保を可能な限り行っていく。

5 持続可能な社会を目指し、保護者・地域との連携を深める。(教務・生活)

【学校の自己評価から】

- 「学校は、安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答が 100%である。
- 「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。」の肯定的回答が 100%である。
- 「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の肯定的回答が 100%である。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「学校は、安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答が 82.5%である。
- 「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。」の肯定的回答が 96.6%である。
- 「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の肯定的回答が 87.4%である。
- 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の地域の肯定的回答は 92.9%である。
- 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。」の地域の肯定的回答は 82.1%である。
- 「学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」の肯定的回答が 93.4 であった。
- 「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の地域の肯定的回答が 78.6%であり、否定的回答が 21.4%である。

- 「本校の通学路は安全である。」の地域の肯定的回答が 38.7%であり、否定的回答が 61.3%である。
- 「本校の児童は登下校時、近隣に迷惑をかけていない。」の地域の肯定的回答が 67.9%であり、否定的回答が 32.1%である。

【児童のアンケート調査から】

対応する設問項目なし

《改善案》

- ・毎月の避難訓練や、毎年行うセーフティ教室などの学校で行う安全指導についてホームページ等で発信している。また、地域主催の防災訓練など、保護者や地域の取組についても周知したり参加したりしているが、通学路の安全性や、防犯の取組においては、定期的に職員目視点検し、改善していく必要がある。また、安全について学校で指導したことが、学校外の場所で子どもの行動となって表れるよう、子どもに自ら考えさせるような指導を行っていく。
- ・地域の安全に関わる情報は、児童に指導するとともにすぐる等で保護者にも情報発信し周知を図る。

6 「キャリア・未来デザイン教育」の実現（キャリア・学舎）

【学校の自己評価から】

- 「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。」の肯定的回答は 100%である。
- 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の肯定的回答は 97.2%である。
- 「学び舎の区立（幼稚園）中学校について情報提供がされている」の肯定的回答が 97.1%であった。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。」の肯定的回答は 62.8%であり、否定的回答は 37.2%である。
- 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の肯定的回答は 44.4%であり、否定的回答は 55.6%である。
- 「学び舎の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」の否定的回答が 48%であった。

【児童のアンケート調査から】

- 「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」の肯定的回答は 60%であり、否定的回答は 40%である。
- 「目標をもち、その実現に向けて努力している。」の肯定的回答は 83.8%であり、否定的回答は 16.2%である。
- 「区立中学校に関する情報が提供されている。」の肯定的回答は 35.7%であり、否定的回答は 64.3%である。

《改善案》

- ・めあて学習やキャリアパスポートの活用を通して、目標をもたせることやその実現のための支援は、全ての教育活動において実施している。しかし、何年も続けている取組にも関わらず、学校の自己評価と保護者・地域の関係者、児童のアンケート結果の乖離が大きい。「烏山小学校の児童が普段からやっていることは、当たり前のことではない。すごいことをやっていて、児童には大きな力が身についている。」ということの日頃の授業、保護者会、個別面談の機会に伝え、価値づけていくことで評価の乖離を小さくしていく。
- ・道徳、総合的な学習の時間、学校行事の機会を通して、生き方や将来のことについて考える授業を行っているが、学校の自己評価と保護者・地域の関係者、児童のアンケート結果の数値は大きく異なっている。特に道徳は、2018年から教科化されて7年目を迎えるにも関わらず、児童の肯定的回答は60%に留まっている。質問の内容と日頃の学習の繋がりを意識できるように「なぜ道徳を学ぶのか。」ということをもっと伝えていくことで改善を図る。
- ・種々の行事における上祖師谷中学校の生徒ボランティアの参加や第6学年児童の中学校見学、中学校の教員による第5学年への出前授業など多くの機会に小中連携の取組を実施しているが、学校の自己評価と保護者・地域の関係者、児童のアンケート結果の乖離が大きい。保護者や地域への伝え方を改善していくことと並行して、児童や保護者はどのような情報を求めているのかを精査することが必要であると考え。

7 その他の取り組み（教務）

【学校の自己評価から】

- 「保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的回答が100%であった。
- 「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで参加している」の肯定的回答が91.4%であった。
- 「地域の人や施設を教育活動に生かしている」の肯定的回答が100%であった。

【保護者・地域の関係者アンケートから】

- 「保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的回答が82%であった。
- 地域「学校の重点目標が明確である」の肯定的回答が100%であった。
- 地域「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」の肯定的回答が82.2%であった。
- 「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」の否定的回答が46.1%であった。
- 「今年度の学校重点目標を理解している」の否定的回答が50.3%であった。
- 「地域の人や施設を教育活動に活かしている」の否定的回答が21.4%であった。

【児童のアンケート調査から】

対応する設問項目なし

《改善案》

- ・学校重点目標について「伝えている」「明確である」の回答は肯定的なものの、「理解している」の項目においては否定的回答が半数を占めている。毎月の学校だよりや保護者会などを通して、繰り返し学校重点目標に触れ、各学年学級の取り組みを具体的に伝えることを通して理解の定着を図っていく。